

# 目 次

I	平成27年度 さいたま市学習状況調査の概要	1
II	調査結果と特徴的な問題の解説	
i	小学校第3学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	4
2	調査問題一覧表【設問別】	5
3	特徴的な問題と解説	6
ii	小学校第4学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	10
2	調査問題一覧表【設問別】	11
3	特徴的な問題と解説	12
iii	小学校第5学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	14
2	調査問題一覧表【設問別】	15
3	特徴的な問題と解説	16
iv	小学校第6学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	20
2	調査問題一覧表【設問別】	21
3	特徴的な問題と解説	22
v	中学校第1学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	26
2	調査問題一覧表【設問別】	27
3	特徴的な問題と解説	28
vi	中学校第2学年	
1	調査問題【出題の趣旨】	32
2	調査問題一覧表【設問別】	33
3	特徴的な問題と解説	34
III	調査結果概況【市全体】	38
IV	成果と課題	41

## Ⅱ 調査結果と

# 特徴的な問題の解説

国語科の調査問題について、小学校第3学年から中学校第2学年まで、以下の内容を掲載しています。「さいたま市小・中一貫教育」の観点からも、小・中学校の内容を日々の学習指導に役立ててください。

### **1 調査問題【出題の趣旨】**

大問ごとに、出題の意図や趣旨を示しています。特記すべき事項のあるものについては、ここに示しています。

### **2 調査問題一覧表**

設問ごとに、問題の種類、学習指導要領の領域等、評価の観点、設問のねらい、市の平均正答率を示しています。

### **3 特徴的な問題と解説**

平成27年度調査において、特徴的な問題を取り上げ、出題の趣旨、指導のポイントを示しています。

i 小学校第3学年

1 調査問題【出題の趣旨】

<p>1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>小問2は、表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすることができるかどうかをみるための問題である。そのために、日常で使われている単語の中から、書く問題を2問、読む問題を1問出題した。今年度、ローマ字に関する問題は、小学校第6学年でも出題している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>平成21年度全国学力・学習状況調査6年A<sup>2</sup></p> <p>くすり→( kusuri ) 正答率69.5% 無解答率11.7%</p> <p>たべもの→( tabemono ) 正答率45.8% 無解答率19.1%</p> <p>happa→( はっぱ ) 正答率52.2% 無解答率29.1%</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>平成26年度さいたま市学習状況調査4年<sup>1</sup>問3</p> <p>tosyokan→( としょかん ) 正答率59.1% 無解答率18.7%</p> <p>gakko→( がっこう ) 正答率50.8% 無解答率22.1%</p> <p>さいたま→( Saitama ) 正答率42.8% 無解答率17.3%</p> </div> <p>小問3は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみるための問題である。過去、全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査に出題された問題を参考に作成した。ここでは、主語と述語との照応関係をとらえた上で、文がどのように組み立てられているのかを理解する力が求められる。今年度、同じねらいの問題を小学校第3学年～中学校第2学年で出題している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>平成26年度さいたま市学習状況調査3年<sup>1</sup>問4</p> <p>【問題】朝の会で、先生が <u>手紙を</u> <u>くばった</u>。 正答率59.8%</p> <p>ア イ ウ エ 無解答率 1.8%</p> </div> <p>小問4は、文の中で、適切に読点を打つことができるかどうかをみるための問題である。そのために、文の意味が正しく伝わりづらい文を出題した。ここでは、文の意味を正しく伝えるために、意味の切れ目を理解し読点を打つ力が求められる。</p>
	<p>2 読むこと</p>
<p>3 書くこと</p>	<p>本問は、相手や目的に応じて、敬体や常体との違いに注意して書くことができるかどうかをみるための問題である。そのために、社会の学習でお世話になったスーパーの店員さんにお礼の手紙を出す場面を設定した。ここでは、手紙を出す相手が敬体を使って文章を書かなければならない目上の人であるということ、お世話になったお礼の気持ちを伝えるということを押さえ、適切に書く力が求められる。今年度、同じねらいの設問を、小学校第4学年でも出題している。</p>
<p>4 話すこと・聞くこと</p>	<p>本問は、相手や目的に応じて、理由を挙げながら話すことができるかどうかをみるための問題である。そのために、クラスでやりたい遊びについて発表する場面を設定した。ここでは、多くの人が「おにごっこ」をしたいという気持ちになるように、伝える理由や内容を選んで話す力が求められる。</p>

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		学習指導要領の領域等				評価の観点					市 正答率(%)	市 無解答率(%)
		基礎問題	活用問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能		
1問一(1)	当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。	○					○					○	98.3	0.4
1問一(2)	当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。	○					○					○	96.9	0.7
1問一(3)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○					○					○	79.4	3.5
1問一(4)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○					○					○	91.6	1.0
1問一(5)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○					○					○	58.5	11.3
1問二(1)	表記されたものをローマ字で書くことができる。	○					○					○	43.8	21.2
1問二(2)	表記されたものをローマ字で書くことができる。	○					○					○	25.1	22.6
1問二(3)	ローマ字で表記されたものを正しく読むことができる。	○					○					○	43.0	29.5
1問三(1)	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○					○					○	86.2	1.0
1問三(2)	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○					○					○	63.6	1.2
1問四	文の中で、適切に読点を打つことができる。	○					○					○	70.2	1.2
2	中心となる語や文をとらえ、文章を読むことができる。	○				○						○	58.9	1.4
3	相手や目的に応じて、敬体や常体との違いに注意して書くことができる。	○			○							○	65.7	2.4
4	相手や目的に応じて、理由を挙げながら話すことができる。	○		○					○				85.6	2.6



# 小学校第3学年 読むこと

## 特徴的な問題

問題 大問2

## 出題の趣旨

本問は、中心となる語や文をとらえ、文章を読むことができるかどうかをみるための問題である。そのために、「ツバメ」について書かれた説明文の一部を取り上げ、読む場面を設定した。ここでは、「ツバメが帰ってくる時期」について、複数の事実を関係付けながら読む力が求められる。

## 指導のポイント

### 1 段落の中心語句や中心文をとらえる

段落の内容をとらえるためには、まず、書かれている内容の中で繰り返し出てくる言葉や、問い・題名とつながりのある言葉などに着目しながら中心語句や中心文をとらえる必要がある。

指示語や接続語は、文や文章の構成にかかわる語で、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たしている。「読むこと」の指導の中では、文相互の関係とともに、段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなるものとして指示語や接続語を意識させることが大切である。

【繰り返し出てくる言葉に着目すると…】

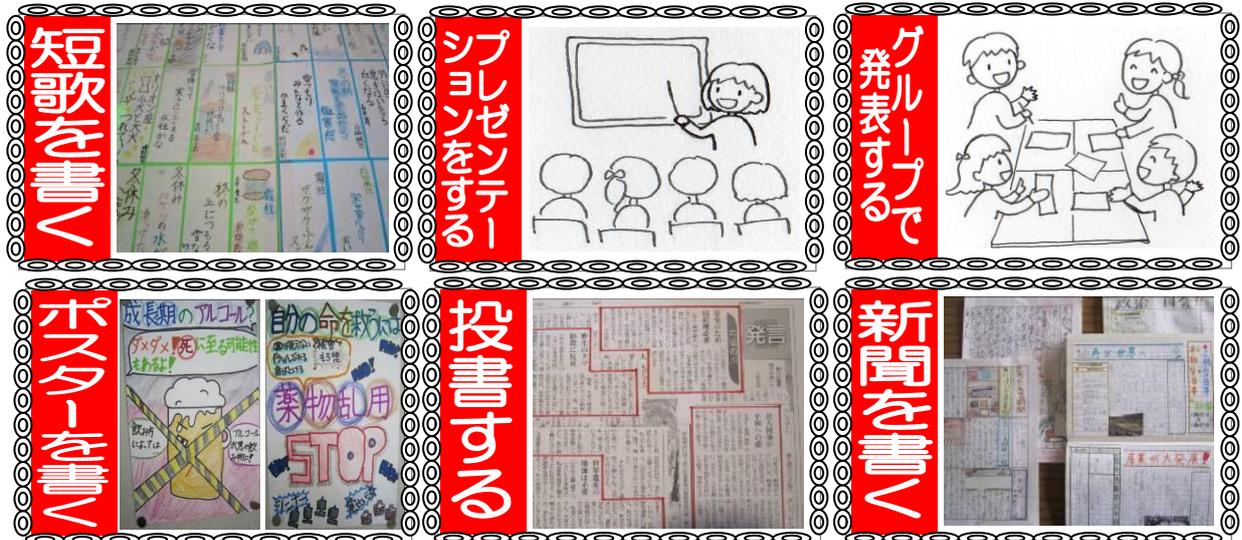
虫が飛びはじめる。 の食べものになる で上がると、ツバメ	平均気温が9℃に 来ている。 なるころ、ツバメが 平均気温が9℃に
------------------------------------	--

ツバメの食べものになる虫が飛びはじめると、ツバメが来ている。

### 2 目的や意図に応じて内容をとらえる

目的や意図に応じて、文章の内容をとらえるには、児童がその必要性や目的意識をもち、単なる作業的な学習にならないようにすることが重要である。そのためには、書きまとめた内容を様々な方法で紹介するなど、第三者に伝えるような言語活動を単元に位置付けて指導することが大切である。

#### <言語活動例>



(参照)

・ 国立教育政策研究所「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」

# 小学校第3・6学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 特徴的な問題

問題 (3年) 大問1小問2 (6年) 大問1小問3

## 出題の趣旨

本問は、表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読みだることができるかどうかをみるための問題である。そのために、日常で使われている単語の中から、書く問題を2問、読む問題を1問出題した。

## 指導のポイント

### 1 ローマ字の規則性を押さえる

ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを見たり、コンピュータを使う機会が増えたりするなど、ローマ字は児童の生活に身近なものになっている。ローマ字の読み書きについては、日本語の音節が子音と母音を用いていることを意識させ、濁音、半濁音、撥音などの規則性を押さえながら指導することが重要である。また、ローマ字を適切に使うことができるように、「基礎学力定着プログラム ワークシート」などを活用し、繰り返し指導することが大切である。

### 【ローマ字に関する基礎学力定着プログラム ワークシート】

The worksheet contains the following exercises:

- 1 次のローマ字を読みましよう。
  - ① Nisi-ku ② Kita-ku ③ Omiya-ku ④ Minuma-ku ⑤ Tyuo-ku
  - ⑥ Sakura-ku ⑦ Urawa-ku ⑧ Minami-ku ⑨ Midori-ku ⑩ Iwatuki-ku
- 2 次の言葉をローマ字で書きましよう。
  - ① おこ ② しっぽ ③ おちゃ ④ としょかん ⑤ おとうさん
  - ⑥ おかあさん ⑦ きっぷ ⑧ がっこう ⑨ たっきゅう ⑩ さいたま市
- 3 自分の名前や学校名をローマ字で書いて、名しを作ってみましよう。

Answers provided in the worksheet:

2の答え  
 ① neko sippo ocha toshokan otosan  
 ② okāsan kippu gakkō takkyū saitamashi

### 2 ローマ字を使う場面を設定する

ローマ字を繰り返し書いて練習させるだけではなく、様々な場面で【ローマ字のきまり】を意識させ、実際に使用させることで、確実に習得できるようにすることが大切である。そのためには、国語科のみならず、総合的な学習の時間など他教科等でコンピュータを使う学習を設定し、ローマ字入カさせることで、繰り返しローマ字を使う機会を増やすようにする。その他の具体的な指導の例としては、「身の回りにあるローマ字を探す」「ローマ字を使ってしりとりをする」などが考えられる。

### 【ローマ字のきまり】

- のばす音は、「^」（のばす印）を使って書き表す。
  - 「ん」（はねる音）のあとに a・i・u・e・o・y が続くときには、音切り（切る印）「'」を入れて書く。
  - 「っ」（つまる音）は、すぐあとに続く文字を重ねて書く。
  - 人の名前や地名は、初めの文字を大文字で書く。
  - 地名などは、大文字だけで書くこともある。
  - 「し (si, shi)」や「ち (ti, chi)」のように、書き方が2つあるものがある。
- (ひろがる言葉 小学国語 3上 教育出版 p.130~131より)

(参照)

- ・国立教育政策研究所「平成21年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校 国語」
- ・基礎学力定着プログラム ワークシート
- ・ひろがる言葉 小学国語 3上 教育出版

## 小学校第3～6学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

### 特徴的な問題

問題 (3年)大問1小問3 (4年)大問1小問4 (5年)大問1小問3 (6年)大問1小問6

### 出題の趣旨

本問は、文の中における主語と述語の関係を理解しているかどうかをみるための問題である。過去、全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査で出題されたものを参考にしながら問題を作成した。ここでは、主語と述語との照応関係をとらえた上で、文がどのように組み立てられているのかを理解する力が求められる。

### 指導のポイント

#### 1 「書くこと」や「読むこと」の学習と関連させた主語・述語の指導

主語と述語は、文の骨格を成し、明瞭な文で書く上で最も基礎となるものである。主語と述語との照応関係が大切であるということについて、文や文章を理解したり表現したりするときに強く意識できるように指導することが必要である。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習と関連させながら、主語と述語の指導を繰り返すことが必要である。

#### 短文づくりの学習で…

教科書の「漢字の広場」「〇年生で学んだ漢字」や、新出漢字を使った短文づくりの際、主語と述語を入れること、25字以上30文字以内で書くことなどの条件を設定して指導する。

#### 「読むこと」の学習で…

主語を補いながら読むことで、登場人物の性格や気持ちの変化、登場人物の心情など、物語文を読むことで付けたい力に迫ることができる。

(もとの文)  
石けりをしながら、女の子は橋を渡りました。キャベツ畑の細い道を通りました。村でたった一けんの、たばこ屋の前を通りました。



(主語を補った文)  
石けりをしながら、女の子は橋を渡りました。(女の子は、)キャベツ畑の細い道を通りました。(女の子は、)村でたった一けんの、たばこ屋の前を通りました。

出典：光村図書4年下「初雪のふる日」

#### 2 様々な文の主語と述語との関係を押さえる

単文や重文、複文などの、様々な文の主語と述語との関係を押さえ、文の意味を的確に理解することが重要である。そのためには、一つの主語が複数の述語に係る文、複数の主語と複数の述語を含む文などを取り上げ、それらの主語と述語の関係を明確に押さえることができるように指導することが大切である。その際、主語と述語の関係を明確にすることが文の意味を正確に理解することにつながるということを意識できるように指導することが必要である。

(参照)

- ・国立教育政策研究所「平成23年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・さいたま市教育委員会「平成24年度 さいたま市学習状況調査報告書 小学校 国語」

ii 小学校第4学年

1 調査問題【出題の趣旨】

<p>① 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>小問3は、接続語の役割を理解しているかどうかをみる問題である。そのために、児童の身近な生活の場面を設定し、2文をつなぐ接続語として、逆接を表すものを取り上げた。ここでは、それぞれの文の内容を理解し、文相互の関係を構築するためには、どの接続詞がよいのかを検討し、使用する力が求められる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>平成24年度さいたま市学習状況調査5年③問5</p> <p>【問題】今日は、部屋の中で遊んだ。(なぜなら)、外は雨だった。 正答率98.3% 無解答率1.0%</p> <p>【問題】オムレツを食べますか。(それとも)、カレーにしますか。 正答率98.4% 無解答率1.0%</p> </div> <p>小問4は、文の中の主語と述語の関係を理解しているかどうかをみるための問題である。過去、全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査で出題されたものを参考にしながら問題を作成した。ここでは、主語と述語との照応関係をとらえた上で、文がどのように組み立てられているのかを理解する力が求められる。今年度、同じねらいの問題を、小学校第3学年～中学校第2学年で出題している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>平成26年度さいたま市学習状況調査5年②問2</p> <p>【問題】わたしは、駅前の花屋で花たばを買った。 ア イ ウ エ オ (主語) 正答率85.6% 無解答率2.0% (述語) 正答率84.9% 無解答率2.1%</p> <p>【問題】わたしの母は、ピアノの先生だ。 ア イ ウ エ (主語) 正答率70.8% 無解答率2.0% (述語) 正答率86.5% 無解答率2.0%</p> </div>
<p>② 読むこと</p>	<p>本問は、中心となる語や文をとらえながら、文章を読むことができるかどうかをみるための問題である。そのために、「からだに必要な水」について書かれた説明文の一部を取り上げ、読む場面を設定した。ここでは、「体内の水分のたいせつな役割」について、複数の事実と関係付けながら読む力が求められる。今年度、本問と同じねらいの設問を小学校第3学年でも出題している。</p>
<p>③ 書くこと</p>	<p>本問は、書こうとすることの中心を明確にして書くことができるかどうか、また、文章の敬体と常体の違いに注意しながら書くことができるかどうかをみるための問題である。そのために、本に書かれていた「目玉焼きの作り方」の中の言葉を使って調理の手順をまとめ直す場面を設定した。ここでは、「目玉焼きの作り方を分かりやすくまとめ直す」という目的意識をもち、どの言葉や文が中心となるのかを明確にしながら書く力や、文末表現を統一することに注意しながら書く力が求められる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>平成25年度さいたま市学習状況調査5年⑤ア・イ</p> <p>(ア) 正答率56.1% 無解答率4.8% (イ) 正答率50.6% 無解答率5.6%</p> </div>
<p>④ 話すこと・聞くこと</p>	<p>本問は、相手や目的に応じて、理由を挙げながら話すことができるかどうか、また、互いの考えを聞き、共通点や相違点を考えながら、話し合うことができるかどうかをみるための問題である。そのために、「なかよし集会」でやりたいゲームについて、グループで話し合う場面を設定した。ここでは、話し合いを進行していくときの司会や役割を理解し、話し合いの目的に応じて話し合う力が求められる。</p>

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題		学習指導要領の領域等				評価の観点					市 正答率 (%)	市 無解答率 (%)
		基礎問題	活用問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	質・伝統的な言語文化と国語の特	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能		
1問一(1)	当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。	○					○					○	98.0	0.5
1問一(2)	当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。	○					○					○	97.2	0.4
1問一(3)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○					○					○	93.8	0.7
1問一(4)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○					○					○	59.1	1.0
1問一(5)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○					○					○	72.2	1.5
1問二(1)	漢字のへん、つくりなどの構成を理解している。	○					○					○	65.9	0.9
1問二(2)	漢字のへん、つくりなどの構成を理解している。	○					○					○	48.2	1.0
1問三	接続語の役割を理解している。	○					○					○	97.3	0.4
1問四(1)	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○					○					○	83.4	0.6
1問四(2)	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○					○					○	76.1	0.7
2	中心となる語や文をとらえ、文章を読むことができる。	○				○						○	68.1	1.1
3ア	書こうとすることの中心を明確にして書くことができる。また、文章の敬体と常体の違いに注意しながら書くことができる。	○				○		○				○	47.1	1.3
3イ	書こうとすることの中心を明確にして書くことができる。また、文章の敬体と常体の違いに注意しながら書くことができる。	○				○		○				○	76.8	1.6
4問一	相手や目的に応じて、理由を挙げながら話すことができる。	○		○								○	85.8	1.5
4問二	互いの考えの共通点や相違点を考えながら、話し合うことができる。	○		○								○	68.2	1.7

### 3 特徴的な問題と解説

## 小学校第4学年 書くこと

### 特徴的な問題

問題 大問3 (ア) (イ)

### 出題の趣旨

本問は、書こうとすることの中心を明確にして書くことができるかどうか、また、文章の敬体と常体の違いに注意しながら書くことができるかどうかをみるための問題である。そのために、本に書かれていた「目玉焼きの作り方」の中の言葉を使って調理の手順をまとめ直す場面を設定した。ここでは、目的である「目玉焼きの作り方を分かりやすくまとめ直す」ためには、どの言葉や文を中心とするのかを明確にしながらかく力や文末表現を統一するために注意しながら書く力が求められる。

### 指導のポイント

#### 1 端的に表現する力を高める

目的に応じて表現活動を行う際、伝えたいことが不明確であったり、意図なく同じことを繰り返したりすることがある。明確な目的や意図をもって、相手に分かりやすく端的に表現する能力を高めることが重要である。この問題では、内容の中心語句や中心文を選び箇条書きにする能力が必要である。箇条書きで端的に表現する力を高めるためには、同じ内容を箇条書きにしたものと、そうでないものを比べて読んだり、文のまとまりに小見出しを付けたりするなど学習活動を工夫することが大切である。

#### 2 様々な機会をとらえて指導する

文章を記述するときには、相手や目的に応じて敬体と常体のどちらかを使用して書くことになる。それを意識的に使い分けることや、書いていくときに「～だ」「～である」「です」「ます」などの文末表現に注意して書くことが重要である。児童によっては、敬体と常体が混在していることがあるので、読み直して統一できるように指導することが大切である。また、「書くこと」の領域だけではなく、様々な機会をとらえて指導する必要がある。以下に、小学校学習指導要領解説 国語編に書かれている敬体や常体の指導に関する指導事項をまとめてみた。

#### (小) 第1学年及び第2学年

○〔話すこと・聞くこと イ〕相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通言葉との違いに気を付けて話すこと。

○〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(キ)〕敬体で書かれた文章に慣れること

#### (小) 第3学年及び第4学年

○〔話すこと・聞くこと イ〕相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉で話すこと。

○〔書くこと〕文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。

#### (小) 第5学年及び第6学年

○〔話すこと・聞くこと イ〕目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

○〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ク)〕日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

(参照)

- ・ 国立教育政策研究所「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・ 国立教育政策研究所「平成23年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」

## 小学校第4学年 読むこと

### 特徴的な問題

問題 大問2

### 出題の趣旨

本問は、中心となる語や文をとらえ、文章を読むことができるかどうかをみるための問題である。そのために、「からだに必要な水」について書かれた説明文の一部を取り上げ、読む場面を設定した。ここでは、「体内の水分のたいせつな役割」について、複数の事実を関係付けながら読む力が求められる。

### 指導のポイント

○中心となる語や文をとらえ、文章を読むためには、要約文を入れた紹介文を書いたり、内容を大まかに整理するために「小見出し」を付けたりするなど、学習活動を工夫する必要がある。以下に、科学読み物を紹介する言語活動を通して、興味をもったところを中心に内容を要約することをねらいとした単元の構想を紹介する。

### 「調査を報告した科学読み物を読んで〇〇の秘密を紹介しよう」

#### 第1次

○「調査を報告した科学読み物を読んで〇〇の秘密を紹介しよう」という学習課題を設定する。

#### 第2次

○教科書教材「ウミガメの命をつなぐ」（教育出版4年上）を読み、秘密だと思ったことを中心に100文字程度の感想文を書く。

○自分の感想の中心となる大事な言葉や文を教材文から書き出す。

○書き出した大事な言葉や文をつなげて、要約文を200文字程度で書く。

○一人ひとりの要約文が違うことに気付けるように、要約文を互いに読み合う。

○自分が選んだ「科学読み物」を読んで興味をもったことを中心に100文字程度の感想文を書く。

○自分の感想の中心に沿った大事な言葉や文を書き出す。

○書き出した大事な言葉や文をつなげて、要約文を200文字程度で書く。

○同じ「科学読み物」を読んだ友達どうして要約文が一人ひとり違うことに気付けるように、要約文を互いに読み合う。

○紹介文をまとめる。

目的や条件に応じて、「教材文」を要約する。

目的や条件に応じて、「科学読み物」を要約する。

それぞれ、目的が違うから大事な言葉や要約の仕方も違うんだね。

#### 第3次

○書いた紹介文を基に「〇〇の秘密」を紹介する。

○科学読み物を紹介するための紹介文の書き方について振り返る。

(参照)

・国立教育政策研究所「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」

iii 小学校第5学年

1 調査問題【出題の趣旨】

<p>1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>小問4は、故事成語の意味や使い方を理解しているかどうかをみる問題である。そのために、日常生活でよく使われる「五十歩百歩」の故事成語を取り上げた。言語活動を豊かにするために、故事成語をはじめ、ことわざや慣用句などの意味を正確に理解し、日常生活で適切に用いることは重要である。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;関連する問題&gt; 平成26年度全国学力・学習状況調査6年A<sup>2</sup> 正答率56.0% 無解答率0.3%</p> </div> <p>小問6は、接続語の役割を理解し、一文を二文に分けることができるかどうかをみるための問題である。そのために、接続語を使って一文を二文に分けて書く場面を設定した。ここでは、一文を主語と述語に着目して二つの文に分けて書いたり、接続語の働きを適切にとらえたりする力が求められる。今年度、同じねらいの問題を小学校第6学年、中学校第2学年でも出題している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;関連する問題&gt; 平成21年度全国学力・学習状況調査6年A<sup>8</sup> 正答率15.0% 無解答率29.9% 平成25年度全国学力・学習状況調査6年A<sup>3</sup>小問2 正答率23.6% 無解答率10.2%</p> </div>
<p>2 読むこと</p>	<p>小問2は、疑問に思ったことと読んで分かったことを関係付けながら、考えをまとめることができるかどうかをみるための問題である。そのために、田中さんと松本さんが、それぞれの疑問を解決することを目的に文章を読み、分かったことを付箋に整理し、文章にまとめる場面を設定した。ここでは、「疑問と解決するために」という目的意識をもち、文章の中に書かれている必要な情報を効果的に読む力が求められる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;関連する問題&gt; 平成26年度全国学力・学習状況調査6年B<sup>2</sup> 正答率27.1% 無解答率7.4%</p> </div>
<p>3 書くこと</p>	<p>本問は、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすることができるかどうかをみるための問題である。そのために、新聞委員会が【取材メモ】をもとに、「クラブ見学」についての記事をまとめる場面を設定した。ここでは、「クラブ見学で見てほしい活動を伝える」という目的をもち、【取材メモ】の中から必要な情報を取り出し、「サッカークラブ」と「料理クラブ」の記事と【条件】に合わせながら、効果的に書く力が求められる。</p>
<p>4 話すこと・聞くこと</p>	<p>小問2は、話し手の意図をとらえながら聞き、質問することができるかどうかをみるための問題である。そのために、調べたことを発表する話し手に対して、聞き手が、話し方の工夫について質問する場面を設定した。ここでは、学習した質問の観点と提示された質問とを照応し、適切なものを選択する力が求められる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;関連する問題&gt; 平成22年度全国学力・学習状況調査6年B<sup>3</sup>① 正答率80.9% 無解答率2.0% ② 正答率78.1% 無解答率2.1%</p> </div>
<p>5 チャレンジ問題</p>	<p>本問は、目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読むことができるかどうかをみるための問題である。そのために、手帳についての情報をインターネットで収集し、複数の条件に照らし合わせて選ぶ場面を設定した。ここでは、複数の情報を比べて読み、条件を満たしているものを選択する力が求められる。今年度、同様のチャレンジ問題を、小学校第6学年でも出題している。</p>

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点					市 正答率(%)	市 無解答率(%)
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝 統 的 な 言 語 文 化 と 国 語 の 特 質	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能		
1問一(1)	当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。	○						○					○	69.7	1.7
1問一(2)	当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。	○						○					○	65.4	1.7
1問二(1)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○						○					○	81.4	4.2
1問二(2)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○						○					○	89.8	1.6
1問二(3)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○						○					○	32.3	7.3
1問三(ア)	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○					○	81.5	2.0
1問三(イ)	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○					○	69.4	2.0
1問四	故事成語の意味や使い方を理解している。	○						○					○	59.1	1.2
1問五	言葉の使い方の違いを理解している。	○						○					○	83.4	0.7
1問六	接続語の役割を理解し、一文を二文に分けることができる。	○						○					○	18.1	5.8
2問一	目的に応じて、文章の細かい点に注意しながら読むことができる。		○										○	48.7	5.7
2問二	疑問に思ったことと読んで分かったことを関係付け、自分の考えをまとめることができる。		○							○			○	19.7	9.8
2問三	段落相互の関係を考えながら、読むことができる。	○											○	45.2	2.8
3問一	表現を工夫して、新聞の小見出しを書くことができる。	○				○							○	20.7	3.2
3問二	目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。		○			○				○			○	64.2	10.1
4問一	事柄が明確に伝わるように、資料を提示しながら話すことができる。		○		○								○	76.7	6.5
4問二	話し手の意図をとらえながら聞き、質問することができる。		○		○								○	69.4	7.3
5	目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読むことができる。			○					○				○	73.8	8.3

### 3 特徴的な問題と解説

## 小学校第5学年 話すこと・聞くこと

### 特徴的な問題

問題 大問4小問2

### 出題の趣旨

本問は、話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、質問することができるかどうかをみるための問題である。そのために、調べたことを発表する話し手に対して、聞き手が、話し方の工夫について質問する場面を設定した。ここでは、学習した質問の観点と提示された質問とを照応し、適切なものを選択する力が求められる。

### 指導のポイント

#### 1 よい聞き手を育てる

話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、質問するには、話し手を尊重して主体的に聞こうとする態度を高めるとともに、話し手と聞き手の両者にとって大事なことを押さえ、話し手の意図に合わせて質問を工夫できるようにすることが重要である。そのためには、話し手の意図や話の中心を的確にとらえ、自分の意見と比べるなどした上で、本設問で示したような様々な観点到合わせながら、聞きたいことを明確にして質問することができるように指導することが大切である。また、発表を聞いた後に感想を述べる場を設定したり、よい聞き手になることを意識させるための掲示物を作成したりすることも大切である。

【よい聞き手になろう】四カ条

- 一 話の中心に気を付けて聞こう！  
「話し手が伝えたいことは、何かな？」
- 二 自分と比べながら聞こう！  
「共通点・相違点は、何かな？」
- 三 疑問点を質問しよう！  
「もっと詳しく聞きたいこと、  
分からないことは、ないかな？」
- 四 聞いた感想を伝えよう！  
「感じたことや考えたことを  
話し手にしっかり伝えよう」

【掲示物の例】

#### 2 目的や意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめる

相手の話を聞く際は、「伝えたいことは何か」「共に考えたいことは何か」など、話し手の目的や意図をとらえながら聞くことができるように指導することが大切である。また、聞き取った内容について自分の考えと比べて共通点や相違点を分類したり、関連して考えたことなどを整理したりしながら、自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。

具体的には、必要に応じて、メモを取りながら聞いたり、取ったメモの内容を整理して相互関係を考えたりするような指導が考えられる。その際、次のような点に留意することが大切である。

#### 【メモの取り方のポイント】

- ・後で見たときに分かるように書く。
- ・短い言葉で書く、記号を書く、箇条書きにするなど、工夫して、すばやく書く。
- ・聞き取れなかったことなどは、あとで質問できるように、印を付けたり、書くところを空けておいたりする。
- ・話が終わったら、すぐにメモを読み返し、書き切れなかったことを書いたり、気が付いたことを加えたりして整理する。

(参照)

- ・国立教育政策研究所「平成22年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・国語4年下はばたき 光村図書
- ・ひろがる言葉 小学国語 5上 教育出版

特徴的な問題

問題 大問3小問2

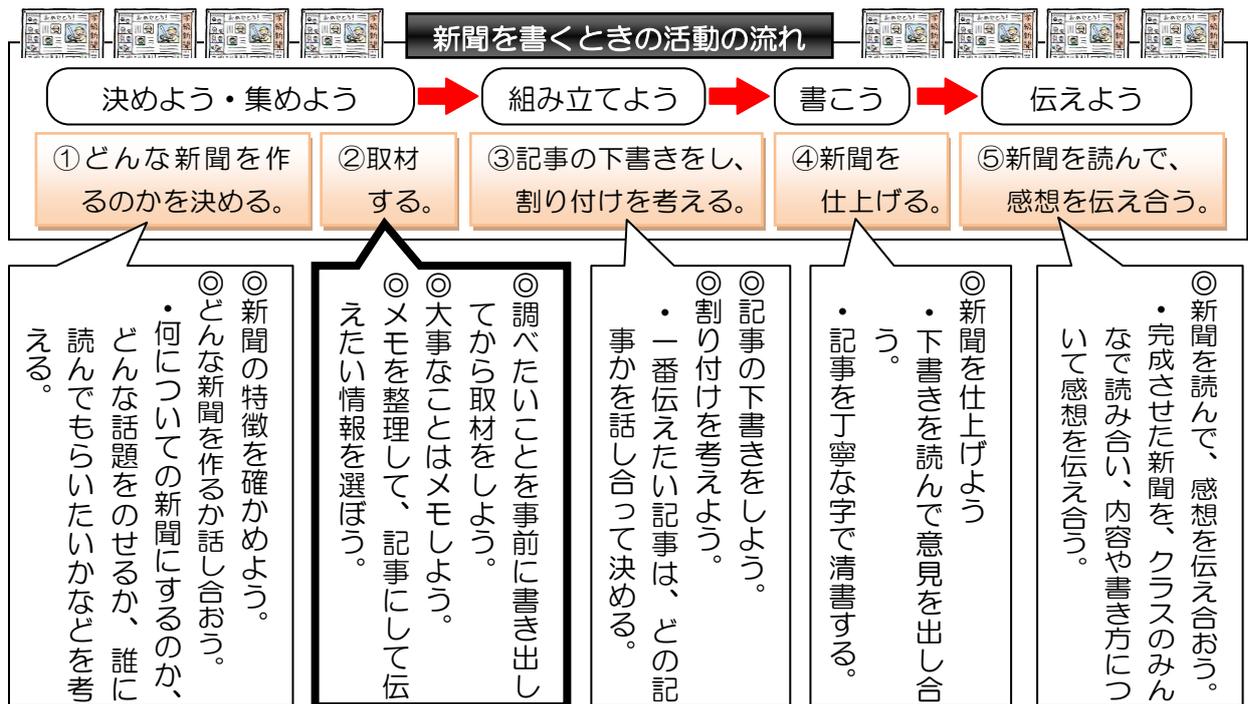
出題の趣旨

本問は、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすることができるかどうかをみるための問題である。そのために、新聞委員会が【取材メモ】をもとに、「クラブ見学」についての記事をまとめる場面を設定した。ここでは、「クラブ見学で見てほしい活動を伝える」という目的をもち、【取材メモ】の中から必要な情報を取り出し、「サッカークラブ」と「料理クラブ」の記事と【条件】に合わせながら、効果的に書く力が求められる。

指導のポイント

1 調べたことなどを基に新聞を書く

調べたことを基に新聞を書く時には、相手や目的に応じて、書く材料の収集や選択の仕方、まとめ方などを様々に工夫することが大切である。例えば、題材としては、自分が経験したことや身の周りで起きた出来事などを取り上げることが考えられる。それらを基に新聞を書くためには、紹介や案内、報告などの複数の種類の文章を編集し、割り付けを工夫した上で、効果的な見出しを付けたり、読者に分かりやすい記事を書いたりすることができるように指導することが大切である。



2 文の論理を考えて書く

目的や意図に応じて、伝えたい内容を明確に伝えるためには、文の論理を考えながら一文一文が的確につながるように書くことが重要である。そのためには、主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係のを的確に押さえ、重文や複文についての理解が深まるように指導することが大切である。また、事実と意見の関係、理由や根拠と結論の関係などを的確に押さえることも大切である。

(参照)

- ・ 国立教育政策研究所「平成24年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・ 国語4年上 かがやき 光村図書

# 小学校第5学年 読むこと

## 特徴的な問題

問題 大問2小問2

## 出題の趣旨

本問は、疑問に思ったことと読んで分かったことを関係付けながら、考えをまとめることができるかどうかをみるための問題である。そのために、田中さんと松本さんが、それぞれの疑問を解決することを目的に文章を読み、分かったことを付箋に整理し、文章にまとめる場面を設定した。ここでは、「疑問と解決するために」という目的意識をもち、文章の中に書かれている必要な情報を効果的に読む力が求められる。

## 指導のポイント

### 1 疑問に思ったことと分かったことを関係付けながら読む

自分の課題を解決するために、科学に関する本や文章を読み、調べたいと思ったことや疑問に思ったことと分かったことを関係付けながら、自分の考えを広げたり深めたりすることが重要である。そのためには、自分の課題を明確にし、主体的に必要な情報を収集、整理する中で、自分の考えの広がりや深まりを実感できるように指導することが大切である。その際、教師がモデルを示し、必要な条件の中で、分かったことや考えたことをまとめたり、事実と感想、意見などを区別してとらえられるように、色の違う付箋を活用したりしながら、指導するとよい。

### 2 複数の文章や資料を関係付けて読む力を高める

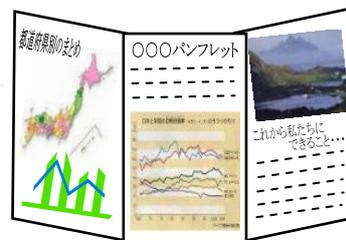
調べるための文章や資料には、教科書教材はもとより、事典や新聞、雑誌、パンフレット、グラフ等がある。これらの文章や資料を正確に理解する力は、国語科以外でも必要となる。こうした力を高めるためには、複数の文章や資料を調べて検討するような学習を展開するようにするとよい。



新聞は、起こった出来事を素早く、かつ広く伝えるもの。同じ出来事であっても、各新聞社によって書き方が異なる。客観的に情報を判断するためには、いくつかの新聞を読み比べることが有効である。



雑誌は、ある期間（1週間ごと＝週刊誌、1ヶ月ごと＝月刊誌など）ごとに、継続的に発行されるもの。雑誌には、出来事が起きてから、発行されるまでの時間の経過に見合った取材結果が載せられる。



パンフレットは、重要な出来事、商品や施設などの案内・説明・広告などを、簡単にまとめた印刷物。一枚の印刷物をリーフレットと呼ぶ。興味をもった人が読むので、簡単で分かりやすく、説得力のある文章が不可欠である。

(参照)

- ・ 国立教育政策研究所「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・ 国立教育政策研究所「平成26年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」

# 小学校第5・6学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

## 特徴的な問題

問題 (5年) 大問1小問6 (6年) 大問1小問5

## 出題の趣旨

本問は、接続語の役割を理解し、一文を二文に分けることができるかどうかをみるための問題である。そのために、接続語を使って一文を二文に分けて書く場面を設定した。ここでは、一文を主語と述語に着目して二つの文に分けて書いたり、接続語の働きを適切にとらえたりする力が求められる。

## 指導のポイント

文章を書くとき、「が」や「ので」などの接続助詞を多用することにより、一文が長くなり、内容が伝わりにくくなる。自分が伝えたいことを明確にした上で、一文を比較的短くし、文と文との接続関係を整えながら簡潔に伝えることを指導することが重要である。

### 1 接続語の働きを押さえる

接続語について学習する小学校第3・4学年の段階から順接・逆接・並列・累加・転換などの働きを押さえ、それらを適切に使うことができるように「基礎学力定着プログラム ワークシート」などを活用し、繰り返し指導することが大切である。

The worksheet consists of two pages. The left page is for 3rd grade and the right page is for 4th grade. Both pages contain a list of sentences with blank lines for students to separate them into two sentences using appropriate connectors. The 4th grade page includes an example of how to use connectors like 'けれども' (but) and 'そして' (and).

【接続語に関する基礎学力定着プログラム ワークシート】

### 2 文章の中の接続語に注目する

接続語を効果的に使うことで、内容と内容のつながりをはっきりさせたり、話し手や書き手の気持ちを表したりすることができる。登場人物の心情や相互関係をとらえたり、中心となる文や段落相互の論理の展開を理解したりしながら読むときに、接続語に着目することを手立ての一つとすることが大切である。そうすることで、接続語の働きを適切にとらえる力が実生活の中で活用できる力となる。

(参照)

- ・ 国立教育政策研究所「平成25年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・ 基礎学力定着プログラム ワークシート

iv 小学校第6学年

1 調査問題【出題の趣旨】

<p>1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>小問4は、言葉の使い方の違いを理解しているかどうかをみるための問題である。そのために、「似た意味の言葉調べ」の学習で、移動の意味を表す「走行する」と「走る」とを比べて、意味の違いをとらえて書く場面を設定した。ここでは、「走行する」と「走る」の用法を押さえて、比べて考えたことをまとめる力が必要である。</p> <p>&lt;関連する問題&gt; 平成20年度全国学力・学習状況調査6年A<sup>4</sup> 正答率53.4% 無解答率1.3%</p>
<p>2 読むこと</p>	<p>小問3は、目的に応じて、複数の文章を選んで読むことができるかどうかをみるための問題である。「きのこ研究者」と「車掌」の仕事について書かれた『月刊ジュニアエア』の特集記事の中から、家の人の特集記事を紹介した理由について考える場面を設定した。ここでは、「仕事のやりがいとその仕事に就く方法をクラスの友達に説明するために」という目的意識をもち、記事の違いに注目して読んだり、共通していることを結び付けたりしながら読むことが求められる。</p> <p>&lt;関連する問題&gt; 平成24年度全国学力・学習状況調査6年B<sup>3</sup>問3 正答率45.3% 無解答率 8.9% 問4 正答率38.1% 無解答率16.9%</p>
<p>3 書くこと</p>	<p>小問2は、表現の効果について確かめたり工夫したりしながら、書くことができるかどうかをみるための問題である。そのために、友達と社会科見学に行く「国会議事堂」について調べ、リーフレットにまとめる場面を設定した。自分の考えを効果的に書くためには、異なる立場からの意見を踏まえることが重要である。ここでは、【上田さんの意見】を踏まえて、読み手の立場から、文章を客観的に評価する力が求められる。</p> <p>&lt;関連する問題&gt; 平成25年度全国学力・学習状況調査6年B<sup>2</sup>問1 正答率64.0% 無解答率 4.3%</p>
<p>4 話すこと・聞くこと</p>	<p>小問2は、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができるかどうかをみるための問題である。そのために、1年生と6年生と一緒に遊ぶ時に「どのような遊びだとなかよく遊べるか」について話し合う場面を設定した。ここでは、司会の役割を理解し、様々な意見、立場の違う提案を関係付けて一つのよい意見や提案にまとめていく力が求められる。</p> <p>&lt;関連する問題&gt; 平成19年度全国学力・学習状況調査6年A<sup>7</sup>① 正答率63.1% 無解答率 4.8% ② 正答率79.2% 無解答率 6.9% 平成21年度全国学力・学習状況調査6年A<sup>7</sup> 正答率68.2% 無解答率15.1% 平成26年度全国学力・学習状況調査6年A<sup>7</sup> 正答率72.5% 無解答率 5.6% 平成26年度全国学力・学習状況調査6年B<sup>1</sup>① 正答率65.4% 無解答率 7.8%</p>
<p>5 チャレンジ問題</p>	<p>本問は、目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読むことができるかどうかをみるための問題である。そのために、手帳についての情報をインターネットで収集し、複数の条件に照らし合わせて選ぶ場面を設定した。ここでは、複数の情報を比べて読み、条件を満たしているものを選択する力が求められる。今年度、同様のチャレンジ問題を、小学校第5学年でも出題している。</p>

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点				市 正答率 (%)	市 無解答率 (%)	
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝に統的な言語文化と国語の特	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力			言語についての知識・理解・技能
1問一(1)	当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。	○						○					○	95.4	1.2
1問一(2)	当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。	○						○					○	97.4	0.5
1問二(1)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○						○					○	66.1	2.8
1問二(2)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○						○					○	52.5	18.7
1問二(3)	当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことができる。	○						○					○	71.2	8.2
1問三(1)	表記されたものをローマ字で書くことができる。	○						○					○	46.7	8.2
1問三(2)	表記されたものをローマ字で書くことができる。	○						○					○	36.8	9.1
1問三(3)	ローマ字で表記されたものを正しく読むことができる。	○						○					○	75.3	11.5
1問四	言葉の使い方の違いを理解している。	○						○					○	67.4	0.4
1問五	接続語の役割を理解し、一文を二文に分けることができる。	○						○					○	11.7	7.6
1問六	文の中の主語と述語の関係を理解している。	○						○					○	49.2	0.6
2問一	文章の内容を的確に押さえて、要旨をとらえることができる。		○										○	66.6	4.6
2問二	目的に応じて、文章を比べて読むことができる。		○										○	61.7	1.1
2問三	目的に応じて、複数の文章を選んで読むことができる。		○						○				○	16.5	15.1
3問一	文章全体の効果を考えながら、小見出しを書くことができる。	○						○						77.1	0.9
3問二	表現の効果について確かめたり工夫したりしながら、書くことができる。		○					○					○	33.5	14.1
4問一	互いの考えの共通点や相違点を考えながら、話合いの司会をすることができる。		○			○							○	52.7	5.9
4問二	互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。		○			○							○	49.6	2.5
5	目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読むことができる。			○					○				○	83.3	2.9

### 3 特徴的な問題と解説

## 小学校第6学年 話すこと・聞くこと

### 特徴的な問題

問題 大問4 小問1(2)

### 出題の趣旨

本問は、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができるかどうかをみるための問題である。そのために、1年生と6年生と一緒に遊ぶ時に「どのような遊びだとなかよく遊べるか」について話し合う場面を設定した。ここでは、司会の役割を理解し、様々な意見、立場の違う提案を関係付けて一つのよい意見や提案にまとめていく力が求められる。

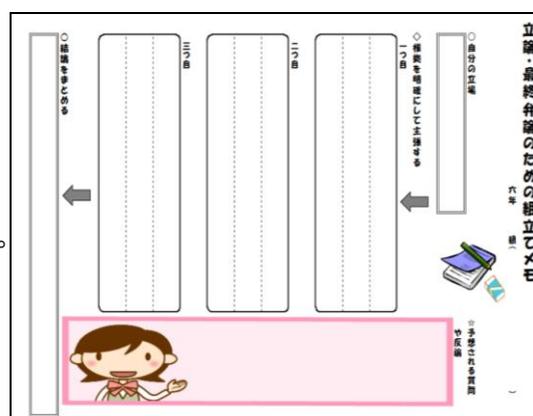
### 指導のポイント

#### 1 発表する力、聞く力を高める指導

話し合いには、グループやクラス全体での共通理解や問題解決に向けて、相互の知識や考え、意見などを出し合い、一つにまとめていく協議と、互いの考えの違いを大事にしながら多くの考えを関係付けていく討論とがある。話し合いを建設的なものにするには、一人ひとりの話す力や聞く力を高めることが重要である。

話し合いを通して話す力を高めるためには、ワークシートなどを活用しながら、事実や感想、意見などを区別して話すこと、結論から先に述べて根拠を後に述べるといった構成を意識して話すことなどを指導する必要がある。

一方、聞く力を高めるには、自分の感想、意見との相違点や共通点などを聞き分けたり、全体と部分、事実と意見との関係に注意して聞いたりすることなどの指導を繰り返すことが大切である。



#### 2 司会の能力を高める指導

司会者には、話の構成を工夫し、整理しながら話す力や話し手の意図を考えながら聞く力が必要である。こうした司会者に必要な能力を発揮した話し合いは、目的や流れに沿い、焦点化された話し合いとなっていく。司会の能力を高めるには、各教科との関連を図りながら、全員が司会の役割を経験できるように、グループやクラス全体での話し合いの場を繰り返し設定する必要がある。その際、活動の流れを明確にした学習資料や司会者として使いたい言葉をまとめた司会マニュアルなどを用意して活用するとよい。

(参照)

・ 国立教育政策研究所「平成19年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」

### 討論会の流れシート

これから討論会を始めます。今回の話題は……

- 1 始めの言葉**
  - 司会者による、開始のあいさつとテーマの説明
- 2 立論**
  - 肯定派(Aの立場)の立論(2分)
  - 否定派(Bの立場)の立論(2分)

自分の立場をはっきり主張しましょう。主張の根拠を明確にして話しましょう。主張の根拠は、2つ〜3つ入ると説得力があります。
- 3 作戦タイム**
  - この作戦タイム(2分)では、相手の主張と根拠の関係をしっかり把握しよう。そして、もっともよく聞こえる主張にちがう根拠をつけて、主張を否定する方法を考えよう。
- 4 質問・反論**
  - 否定派(Bの立場)の質問・反論(3分)
  - 肯定派(Aの立場)の質問・反論(3分)

質問・反論を受ける側は、あらかじめ、質問・反論を予想しておき、さらなる根拠を加え、答えられるようにしましょう。
- 5 作戦タイム**
  - この作戦タイム(2分)では、最終弁論への確認をします。質問・反論を受けて、何を根拠に、立場を主張するのがいちばん効果的なかを話し合しましょう。

特徴的な問題

問題 大問3小問2

出題の趣旨

本問は、表現の効果について確かめたり工夫したりしながら、書くことができるかどうかをみるための問題である。そのために、友達と社会科見学に行く「国会議事堂」について調べ、リーフレットにまとめる場面を設定した。自分の考えなどを効果的に書くためには、異なる立場からの意見を踏まえることが重要である。ここでは、【上田さんの意見】を踏まえて、読み手の立場から、文章を客観的に評価する力が求められる。

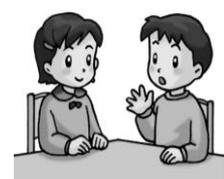
指導のポイント

1 相互評価を積極的に位置付ける

「表現の効果を確認する」とは、自分の考えなどを明確に表しているか、相互関係が明確な構成であるか、表現の曖昧さはないかなどについて、確かめることである。「表現の効果を工夫する」とは、相手が読んで理解しやすいように更に改善できる部分について、よりよいものにしていくことである。表現の効果を確認したり更に工夫したりするためには、読み手の立場から文章を客観的に評価することが必要となる。そのような点からも自己評価に加えて相互評価を積極的に位置付けることが求められる。以下に「書くこと」の学習で、自己評価、相互評価を行うときの視点の例である。全てを行うのではなく、単元で付けたい力に応じて視点を提示することが大切である。

【「書くこと」の学習で相互評価を行うときの視点の例】



<p>○ てん（ ）は、正しくかいていますか。</p> <p>○ まる（ ）は、正しくかいていますか。</p> <p>○ 文と文のつながりは、正しくかいていますか。</p> <p>○ 主語とじゅつ語は、正しくかいていますか。</p> <p>○ 字のまちは、ありませんか。</p> <p>○ 文のおわりは、正しくかいていますか。</p> <p>○ 書きたいことを見つけたことが、できていますか。</p> <p>○ したことのじゅんじょは、わかりますか。</p> <p>○ 「はじめーなーおわり」でかいていますか。</p> 	<p>○ 関心のあることから、書くことを決めていますか。</p> <p>○ ふさわしい方法で、調べていますか。</p> <p>○ 中心をはっきりさせ、文章を書いていますか。</p> <p>○ 様子が分かるように、会話を入れていますか。</p> <p>○ 気持ちに分かるように、くわしく書いていますか。</p> <p>○ 必要な資料を取り入れながら書いていますか。</p> <p>○ 事ごとの関係に意識しながら、書いていますか。</p> <p>○ 段落ごとの関係に意識しながら、書いていますか。</p> <p>○ 理由や事例をあげながら、書いていますか。</p> <p>○ 理由を表す表現を使って、書いていますか。</p> <p>○ 文末表現に注意して、書いていますか。</p> 	<p>○ 内容に応じて、簡単に書いたり、くわしく書いたりしていますか。</p> <p>○ 読み手に意見が、明確に伝わりますか。</p> <p>○ 意見と根拠（もとになる理由）が合っていますか。</p> <p>○ 物語や説明文などから学んだ表現を生かしていますか。</p> <p>○ 事実と自分の考えとを区別して書いていますか。</p> <p>○ 感じたり考えたりしたことから、書くことを決めていますか。</p> <p>○ 比較したり関係付けたりしながら書くことを決めていますか。</p> <p>○ 自分の考えが明確になるように構成していますか。</p> <p>○ 書き出しを工夫していますか。</p> <p>○ 概説や要約を活用していますか。</p> <p>○ まとめの書き方を工夫していますか。</p> <p>○ 事実と感想、意見を区別して書いていますか。</p> <p>○ 適切に引用できていますか。</p> <p>○ 効果的に図表やグラフを用いていますか。</p> 
---	--	--

(参照)

・文部科学省「小学校学習指導要領解説 国語編」

## 小学校第6学年 読むこと

### 特徴的な問題

問題 大問2小問3

### 出題の趣旨

小問3は、目的に応じて、複数の文章を選んで読むことができるかどうかをみるための問題である。「きのこ研究者」と「車掌」の仕事について書かれた『月刊ジュニアアエラ』の特集記事の中から、家の人の特集記事を紹介した理由について考える場面を設定した。ここでは、「仕事のやりがいとその仕事に就く方法をクラスの友達に説明するために」という目的意識をもち、記事の違いに注目して読んだり、共通していることを結び付けたりしながら読む力が求められる。

### 指導のポイント

#### 1 新聞や雑誌記事を要約したり、見出しを付けたりする

現代社会では、新聞、雑誌、インターネットなど、様々なメディアが、学習や生活の中で活用されている。新聞や雑誌の記事の内容を注意して読んだり、目的に応じてそれらのメディアを活用したりできるよう指導することが大切である。そのためには、各教科等において、新聞や雑誌の記事の内容を要約したり、見出しを付け直したり、リード文を書いたりする言語活動を位置付けた学習を行うことが重要である。

○月○日(○) △△新聞

切り取った記事

- 記事の要約
- その記事から、自分が考えたり感じたりしたこと
- 2016年1月17日付

- 要約する…目的や必要に応じて、話や本、文章の内容を短くまとめること
- 見出し…短い言葉で文章の内容を表したもの
- リード文…本文の内容の大体がわかるように、短い文章でまとめたもの

#### 2 複数の資料を関係付けて読む

複数の資料を選び、それらを関係付けて読むためには、「何のために読むのか」という目的が明確でなければならない。明確な目的に基づき、様々な種類の資料を取り上げながら、必要な情報を探し、取捨選択して活用する指導を行う必要がある。また、探した情報を基に自分の考えを書くなどの指導を展開することも大切である。

学校では、文や段落から構成された文章を扱うことが多いが、データを視覚的に表現した図・グラフ、表なども計画的に取り入れた学習を行うことが重要である。また、比べ読み、速読、摘読、多読など多様な読み方の中から、目的に応じて、効果的な読み方を選択し、活用するよう指導することが重要である。

【全国学力・学習状況調査の問題に出された「何のために読むのか」という目的】

- 1年生に読み聞かせをするために、昔話を読む (平成27年度B問題より)
- 疑問を解決するために、科学読み物を読む (平成26年度B問題より)
- 言葉の使い方について考えるために、資料を読む (平成25年度A問題より)
- マラソンの距離やその由来を説明するために、雑誌を読む (平成24年度B問題より)

(参照)

- さいたま市教育委員会「平成24年度 さいたま市学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- 国立教育政策研究所ホームページ「PISA調査(読解力)結果等に関する参考資料」

# 小学校第5・6学年 チャレンジ問題

## 特徴的な問題

問題 (5年) 大問5 (6年) 大問5

## 出題の趣旨

本問は、目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読むことができるかどうかをみるための問題である。そのために、手帳についての情報をインターネットで収集し、複数の条件に照らし合わせて選ぶ場面を設定した。ここでは、複数の情報を比べながら、条件を満たしているものを選択する力が求められる。

## 指導のポイント

### 1 複数の情報を比べながら読む

自分の課題を解決するためには、目的や意図に応じて資料を収集し、情報を比べながら、必要な情報を選択することが重要である。このことは、国語科の学習のみならず、各教科等の学習、日常生活においても必要な能力である。この能力を付けるためには、教材として複数の文章や資料を取り上げ、具体的な言語活動を設定して指導することが必要である。また、「表やグラフは、変化や傾向、順位、時間の経過などを表している」「図は、分類や組織、構成や関係、手順や過程などを表している」などについても指導するとともに、「課題克服応援シート」などを活用し、様々な資料や情報の中から適切なものを取り上げ、自分の考えをまとめる学習を繰り返し行うことが大切である。



さいたま小学校は、緑豊かな地域にある全校児童562人の小学校です。クラスは全部で18クラスあり、1年生から6年生まで、全学年3クラスあります。かずひろさんは、保健委員長です。保健委員会では、けがで保健室を使う人数を調べることになりました。下の表は、10月のある1週間のけがによる保健室の利用状況をまとめたものです。右のメモはかずひろさんが保健室に残っていた記録をもとにまとめたものです。

	けがの種類と、けがをした場所 (人)					合計
	家庭	体育館	教室	ろり下	階段	
すりきず	17	2	3	1	0	23
だばく	11	3	14	1	1	30
切りきず	3	0	8	0	0	11
ねんざ	3	1	1	1	0	6
つき指	2	1	2	0	0	5
虫さされ	3	0	1	0	0	4
合計	39	7	29	3	1	79

けがをした主な理由

だばく  
・校庭で友達にぶつかった。  
・教室で机や机に当たった。

すりきず  
・校庭や体育館で転んだ。

切りきず  
・図工の時間にちょうこくとうやカッターで切った。

ねんざ  
・体育で足をひねった。

虫さされ  
・園芸委員会で花だんに水やりをしていてさされた。

1 次のアからエの中で、当てはまるものを全て選びましょう。

- ア この1週間で、授業中にけがをした人はいない。
- イ 委員会の活動中にけがをした人がいる。
- ウ だばくで保健室を利用した人がいちばん多い。
- エ 階段でけがをした人は、ねんざで保健室を利用した。

### 2 思考ツールを活用し、収集した知識や情報を関係付ける

目的に応じ、収集した知識や情報を関係付けながら、自分の考えをまとめていくことが重要である。そのためには、思考ツールなどを活用し、知識や情報を図表などに整理し、多面的に見たり、順序立てたり、焦点化したりするよう指導することが大切である。

<思考ツール(例)>

ベン図

ウェビングマップ

ボックスチャート

マトリックス

ピラミッドチャート

(参照)

- ・ 国立教育政策研究所「平成22年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・ 国立教育政策研究所「平成24年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 小学校 国語」
- ・ 考えるってこういうことか! 「思考ツール」の授業 小学館 田村学・黒上晴夫著

V 中学校第1学年

1 調査問題【出題の趣旨】

<p>1 文学的文章</p>	<p>文学的文章は、構成や展開、表現の仕方において様々な工夫がなされている。表現の工夫に着目することにより、内容の面白さだけでなく、文学的文章を読む楽しみが増し、読書を一層促すことにつながる。また、場面の展開や登場人物の描写に注意して読むことは内容の理解に役立つ。本問は、乾ルカ『向かい風で飛べ!』の一節である。小学校5年生の少女が、スキージャンプを初めて経験し、スキー少年団への入団を決意する場面が生き生きと描かれており、登場人物の言動や、言動に込められた心情を、中学生でも十分に味わえる作品である。叙述に沿って、文章の内容を正確に読み取る力や、読み取った事柄に基づき、登場人物の心情を記述する力を問うものである。</p>
<p>2 説明的文章</p>	<p>資料文は大沢啓子・大沢夕志『コウモリの謎』からの抜粋である。本問ではコウモリの特徴や、種類が増えた理由について説明している部分を取り上げた。本文の要点をつかみキーワードを抜き出すことや、「～だから」という文が、理由を表していることを理解しているか等をみる出題となっている。</p>
<p>3 話すこと・聞くこと</p>	<p>「話すこと・聞くこと」の領域において、学習指導要領の第1学年「話し合うこと」の指導事項に「話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。」と示されている。また、全国学力・学習状況調査においても、学級での話し合いやインタビューなど、日常生活の一場面を題材にした「話すこと・聞くこと」に関する内容が出題されている。</p> <p>そこで、本市でも今年度から「話すこと・聞くこと」に関する内容を出題し、国語の学習と日常生活の様々な場面とが密接に結び付いていることを生徒に意識させた。さらに、教員が調査結果を指導方法の工夫改善に役立てられるようにすることを意図して出題した。本問は、報告会の場面で効果的な資料を用いて話す力が身に付いているかをみるものである。</p>
<p>4 話すこと・聞くこと</p>	<p>話し合いにおいて、目的や場面に応じて、話題や方向をとらえて話し合ったり、互いの発言を検討したりすることは重要である。学校生活においても、特別活動や生徒会活動等で話し合い活動は活発に行われているところである。本問は、話し合いの方向をとらえて司会の役割を果たすことや、互いの発言の共通点と相違点を明確にしつつ、合意形成のため提案の趣旨に沿って話し合いを進めることについての出題となっている。</p>
<p>5 漢字</p>	<p>小学校で学習する漢字の読み書きについて、これまでの本市学習状況調査や全国学力・学習状況調査において課題がみられた。そこで、文脈に即して既習漢字を適切に使えるかを問うものと、過去の調査において通過率が低かったものについて出題した。</p>
<p>6 言語事項</p>	<p>言葉のきまりに関する内容については、確実に身に付けてほしい内容として、文の成分(主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係)を出題した。</p> <p>漢字の筆順、慣用句については、字形や筆順の原則が身に付いているか、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかをみる出題である。</p> <p>歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことについては、「竹取物語」の冒頭の中から出題した。音読を通して古典特有のリズムに慣れ、文語のきまりについて理解できているかどうかをみる問題である。</p>
<p>7 チャレンジ問題</p>	<p>本問では、高齢化社会に関する内容が書かれている実際の新聞記事を使用した。話題の一つは「高齢者にとってのごみ出しの負担」で、もう一つは「ある自治体によるごみ出しの負担軽減策」である。中学校第1、2学年で共通の資料文を使い、読み取りの視点を変えた出題とした。第1学年では、目的や意図に応じて新聞記事を読み、内容や要旨を的確にとらえるとともに、これまでの体験や、生活の中で身に付けた知識と関連付けて自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題である。</p>

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点				市 正答率 (%)	市 無解答率 (%)	
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	質・伝統的・文化的・言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力			言語についての知識・理解・技能
11	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解している。	○					○					○		60.3	0.2
12	叙述に沿って、文章の内容を正確に読み取ることができる。		○				○					○		65.7	16.1
13	読み取った事柄に基づきながら、登場人物の心情について説明することができる。		○			○						○		56.9	9.8
14	文章全体を把握し、主人公の心情を正確にとらえることができる。	○					○					○		79.0	0.4
21	文章中の内容を整理し、必要な情報を正しく読み取ることができる。	○					○					○		60.8	3.8
22	文章中で説明されている内容を整理することができる。	○					○					○		57.3	3.2
23	文章における論の展開を正確に読み取ることができる。	○					○					○		93.6	0.7
24	文章から適切な情報を得て、考えをまとめることができる。		○			○						○		57.4	5.9
3	目的に応じて、資料を効果的に活用して話すことができる。	○			○							○		70.7	1.3
41	聞き手を意識し、分かりやすく話すことができる。	○			○							○		63.1	0.8
42	話し合いの方向をとらえて、情報を整理することができる。		○		○							○		66.9	7.1
51	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。	○					○					○		46.7	31.5
52	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。	○					○					○		62.2	3.1
53	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。	○					○					○		20.3	35.2
54	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。	○					○					○		58.0	29.4
55	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。	○					○					○		82.2	1.3
56	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。	○					○					○		51.9	16.5
57	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。	○					○					○		97.2	1.1
58	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。	○					○					○		95.5	0.7
61	主語と述語について理解している。	○					○					○		35.4	1.0
62	修飾語と被修飾語の関係について理解している。	○					○					○		65.5	2.4
63	漢字の筆順を理解し、正しく書くことができる。	○					○					○		49.2	1.0
64	慣用句の意味を理解し、適切に使うことができる。	○					○					○		87.5	0.9
65	歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直して読むことができる。	○					○					○		54.8	3.4
7	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことができる。			○		○						○		55.1	9.4

中学校第1学年 話すこと・聞くこと

【特徴的な問題】



②県内には、採れたての農産物をその日のうちに買える直売所が三百ヶ所近くもある。

①その中にはこの農産物のように、生産量全国トップクラスの農産物が数多くある。

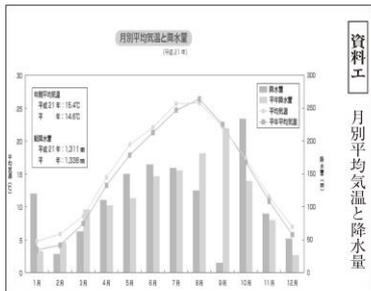
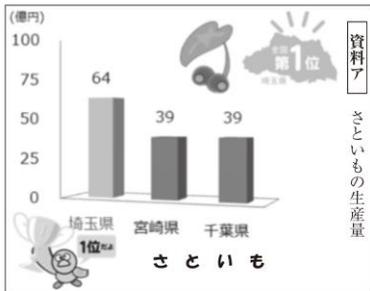
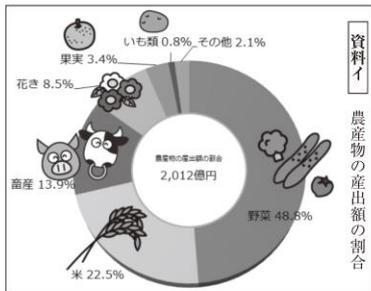
県内には多彩な土壌があり、農産物それぞれの気候風土にあつたさまざまな農業が行われている。埼玉の多彩さは「彩の国」という呼び名のもとにもなっている。

《佐藤さんの報告》  
 私たちのグループでは、「埼玉県の農業」について調査を行いました。

埼玉県は、首都圏の大消費地に近いという利点を生かした農業が盛んである。野菜、米、畜産物を中心に、麦、果物、花などバラエティに富んだ農産物が県内各地で百種類以上作られている。

3 佐藤さんの学級では、自分たちが住む埼玉県についての調査を行い、それをもとにした報告会をすることになりました。「埼玉県の農業」についての報告をする佐藤さんのグループは、報告のどの場面でも、どのような資料を提示すればよいかを考えました。

次の《佐藤さんの報告》の中にある、①と②を話すときに示す《資料》として、最もふさわしいものをあとの「資料ア」から「資料エ」までの中からそれぞれ一つ選びなさい。



<http://www.saitama-toukei.jp/>  
[http://www.ja-saitama.or.jp/stand\\_4/](http://www.ja-saitama.or.jp/stand_4/) より作成

## 出題の趣旨

「話すこと・聞くこと」の領域において、学習指導要領の第1学年「話し合うこと」の指導事項に「話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。」と示されている。また、全国学力・学習状況調査においても、学級での話し合いやインタビューなど、日常生活の一場面にある題材を用いた「話すこと・聞くこと」に関する内容が出題されている。

そこで、本市でも今年度より「話すこと・聞くこと」に関する内容を出題し、国語の学習と日常生活の様々な場面とが密接に結び付いていることを生徒に意識させるとともに、教員が調査結果を指導方法の工夫改善に役立てられるようにすることを踏まえて出題した。

## 指導のポイント

### 1 聞き手を意識した内容と話し方

中学校第1学年の「話すこと・聞くこと」の学習において、小学校で身に付けた話し方のスキルを確認することや、それを目的や場面に応じて、適切に使うことは大切なことである。「話す速度や音量」「言葉の調子や間のとり方」などについては、指導もしやすく生徒どうしも評価しやすい。しかし、それらは「話す能力」の一部分であり、他の指導事項とのバランスを考える必要がある。小学校で身に付けた力を伸ばす視点をもつとともに、以下の視点を日頃の授業で生かすことが望ましい。

#### (1) 「話題を見付ける力」の育成

スピーチやプレゼンテーションを行う際に、話題を見付けられずにいる生徒や、見付けるのに時間を要する生徒がいる。話題を見付けるためには、日頃から様々な出来事に興味・関心を持つことが大切であるが、授業の場でそれを意識させても、すぐに見付けられるわけではない。

そこで、話題を見付ける視点（ヒント）を、生徒に与えることが大切である。いくつかの例を示したり、グループで意見交流したりする中で、「話題を見付ける力」を育成することが大切である。

#### (2) 「情報を取捨選択する力」の育成

学校図書館やコンピュータ、新聞等、多様な方法で情報を集め整理するために、国語の授業のみならず他教科等との関連を意識する必要がある。情報を取捨選択するためには、そのような活動を意図的に行う必要があり、国語の授業だけでは難しい。長期休業等の課題の設定なども含め、他の活動との関連を強化することが大切である。

#### (3) 「話を組み立てる力」の育成

「だれに」「何を」「どのように」伝えるのかを明確にし、話の組み立ての工夫や資料の効果的な活用をさせることが大切である。今回の調査問題では、資料として写真やグラフを用いたが、どのような資料を、いつ提示するか等を考えることも、話を組み立てる力にかかわるものである。ワークシート等を工夫し、話の構成をフローチャートにして視覚的にとらえたり、リハーサル等の練習を通して、互いに聞き合い、アドバイスし合ったりする活動も効果的である。

### 2 聞き手の反応に注意しながら話させること

実際にスピーチや報告会を行う際には、聞き手の反応に注意しながら話させることが大切である。事前に準備していた話を、相手の反応に応じて、臨機応変に補足説明を加えたり、提示する資料の解説等を加えたりすることが必要になる。話すときの視点の当て方や、聞き手の表情や反応を見ながら補足説明等を臨機応変に行うことについても、指導することが大切である。

【特徴的な問題】

6

次の1から5までの各問いに答えなさい。

1 次のアからオまでの中から、主語と述語を、それぞれ一つずつ選びなさい。

ア 犬も  
イ 僕と  
ウ 一緒に  
エ 野原を  
オ 走る。

4 「おそれや驚きによって息を止めること」という意味を表す慣用句を、次のアからエまでの中から一つ選びなさい。

- ア 仕事が忙しく、息つくひまもない。
- イ 全力で走ったので、さすがに息が切れた。
- ウ サークスの曲芸に、思わず息をのんだ。
- エ 知り合って間もないが、息が合う二人だ。

## 出題の趣旨

6

1 主語と述語の関係については小学校第1・2学年で学習する内容だが、言葉の特徴やきまりに関する事項について、定着に課題がみられる。言葉のきまりについては繰り返しの学習の中で、確実に身に付けてほしいことの一つでもある。

そこで、中学校第1学年では、主語になる文節に「が」や「は」という助詞が使われていない文の中から、主語を見付けるという問題を出題とした。主語が分かりにくい場合も、述語を先に見付け、対応する主語を見付けるという探し方が身に付いていることが望まれる。

4 学習指導要領の、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ウ）にある、「事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと」についてみる問題である。中学校第1学年で学習する「河童と蛙」の中で用いられている語句を出題することで、語句の意味を理解し、文脈の中で使われた語句の中から、適切に選択できるかどうかをみる。

## 指導のポイント

6

### 1 言葉のきまり（文の成分）について

文の成分は、中学校第1学年で学習する言葉のきまりの中心となる内容である。その文節が「文を組み立てる上で、どのようなはたらきをもっているか」や「文節どうしの関係」を確実に理解することは、第2学年以降の学習内容とも密接にかかわってくる。そこで、次のような手立てを意識して、指導に当たることが大切である。

(1) 小学校の学習内容を理解する。小学校の教科書には、どのような例文が示されているか等を確認し、ワークシート作成や板書計画の参考とする。

(2) 単語の類別に関する授業の際に、必要に応じて文の成分など既習事項を復習する学習活動を授業の導入等に取り入れる。また、領域等の学習でも、言葉のきまりについて復習する学習を取り入れる。

(3) 書くことの指導において、文章を推敲させる際に、主語が分かりにくくないか、係り受けに誤りはないか、など言葉のきまりについても意識させる。

### 4 語句・語彙指導について

生徒が語句の意味について理解を深め、語彙力を高めるためには、辞書等で意味を理解するとともに、文脈に即して意味をとらえるように指導することが大切である。そのために、日常生活で獲得した語彙を活用できるように、短文を作ったり、別の表現で言い換えたりする学習が有効である。また、昔の言葉や季節の言葉などを取り上げて話題にしたり、社会の中で使われている紛らわしい語句を取り上げたりして、語感を磨き、語彙を豊かにするための学習活動も大切である。

さらに、日頃の読書活動と関連付けて、本を読む際に言葉や表現を読み味わう機会をとらえて、指導することも効果的である。

## 1 調査問題【出題の趣旨】

1 文学的文章	<p>文学的文章は、構成や展開、表現の仕方において様々な工夫がなされている。表現の工夫に着目することは、内容の面白さだけでなく、文学的文章を読む楽しみが増し、読書を一層促すことにつながる。また、場面の展開や登場人物の描写に注意して読むことは内容の理解に役立つ。本問は、安岡章太郎『サーカスの馬』の一節である。大人になった「僕」の視点から描かれている少年時代の「僕」が、サーカスの馬に心引かれていく場面が描かれている。表現に即して、「僕」の心情や人物像、「僕」の心情の変化を読み取ることを求めている。</p>
2 説明的文章	<p>資料文は島村英紀『地球環境のしくみ』からの抜粋である。本問では、もともとの地球環境の仕組みや地球上にある水の問題を、分かりやすく説明した部分を用いている。文章の構成をとらえたり、文章の要点を記述したりすることなど、身に付けてほしい力を見る出題となっている。新たな知識を得たり、科学的な文章を読んだりすることを通して、説明的文章を読むことの面白さにも気付いてほしい。</p>
3 話すこと・聞くこと	<p>「話すこと・聞くこと」の領域において、学習指導要領の第2学年の目標に「目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力」を身に付けさせる、と示されている。また全国学力・学習状況調査においても、学級での話合いやインタビューなど、日常生活の一場面にある題材や、効果的な資料を作成し、活用して発表する場面など、「話すこと・聞くこと」に関する内容が出題されている。</p> <p>そこで、本市でも今年度より「話すこと・聞くこと」に関する内容を出題し、国語の学習と日常生活の様々な場面とが密接に結び付いていることを生徒に意識させた。さらに教員が調査結果を指導方法の工夫改善に役立てられるようにすることを意図して出題した。</p>
4 漢字	<p>小学校で学習する漢字の読み書きについて、これまでの本市学習状況調査や全国学力・学習状況調査において課題がみられた。そこで、文脈に即して既習漢字を適切に使えるかを問うものと、過去の調査において通過率が低かったものについて出題した。</p>
5 言語事項	<p>言葉のきまりに関する内容については、確実に身に付けてほしい内容として、文の成分(主語)と接続詞について出題した。特に話し言葉で日常的に使われることが多い「なので」を意識し、出題した。</p> <p>書写に関する出題は、行書と楷書の特徴を理解しているかをみるものである。</p> <p>古典については、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことや、前後の現代文から、古文の内容について大まかにとらえることをみる問題である。</p>
6 チャレンジ問題	<p>本問は、高齢化社会に関する内容が書かれている実際の新聞記事を使用したものである。話題の一つは「高齢者にとってごみ出しが負担である。」というもので、もう一つは「ある自治体によるごみ出しの負担軽減策」である。中学校第1、2学年で共通の資料文を使い、読み取りの視点を変えた出題となっている。第2学年では、目的や意図に応じて新聞記事を読み、内容や要旨を的確にとらえるとともに、物事や情報を無批判に受け入れるのではなく、多様な角度から検討し、自分の頭で考え、自分の言葉で表現すること(クリティカル・シンキング)ができるかをみる問題である。</p>

## 2 調査問題一覧表【設問別】

設問番号	設問のねらい	問題			学習指導要領の領域等				評価の観点				市 正答率 (%)	市 無解答率 (%)	
		基礎問題	活用問題	チャレンジ問題	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	質・伝に統的なる言語文化と国語の特	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力			言語についての知識・理解・技能
11	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解している。	○					○					○		71.8	0.3
12	叙述に沿って、文章の内容を正確に読み取ることができる。	○					○					○		93.6	0.3
13	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解している。	○					○					○		89.9	0.5
14	文章の構成や展開などを踏まえ、自分の考えをまとめることができる。		○			○							○	41.8	13.0
21	文章の全体と部分との関係を考え、内容を理解している。		○				○					○		62.8	3.6
22	文章中で説明されている内容を整理することができる。	○					○					○		85.8	6.1
23	文章における論の展開を正確に読み取ることができる。	○					○					○		54.9	0.9
24①	文章の展開に即して内容をとらえることができる。	○					○					○		78.8	1.9
24②	文章から適切な情報を得て、考えをまとめることができる。		○			○							○	41.9	15.3
31	聞き手を意識し、分かりやすい語句の選び方を工夫して話すことができる。	○			○								○	83.5	1.0
32	話の内容を理解し、適切にまとめることができる。		○		○								○	59.5	5.3
41	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。	○					○						○	50.9	14.5
42	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。	○					○						○	72.3	12.6
43	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。	○					○						○	56.9	22.6
44	文脈に即して漢字を正しく書くことができる。	○					○						○	67.6	11.0
45	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。	○					○						○	84.7	5.8
46	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。	○					○						○	77.3	5.5
47	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。	○					○						○	73.3	7.5
48	文脈に即して漢字を正しく読むことができる。	○					○						○	93.6	2.1
51	文の成分について理解している。	○					○						○	56.4	1.4
52	接続詞について理解している。	○					○						○	51.4	9.4
53	毛筆を用いて、行書で文字を書くことができる。	○					○						○	79.4	1.0
54①	歴史的仮名遣いを、現代仮名遣いに直して読むことができる。	○					○						○	59.4	5.0
54②	古典の展開に即して内容を理解している。		○				○						○	74.6	2.1
6	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くことができる。			○		○							○	33.7	21.2



## 出題の趣旨

「話すこと・聞くこと」の領域において、学習指導要領の第2学年の目標に「目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力」を身に付けさせる、と示されている。また全国学力・学習状況調査においても、学級での話合いやインタビューなど、日常生活の一場面にある題材や、効果的な資料を作成し、活用して発表する場面など、「話すこと・聞くこと」に関する内容が出題されている。

そこで、本市でも今年度より「話すこと・聞くこと」に関する内容の調査を行い、国語の学習と日常生活のあらゆる場面とが密接に結び付いていることを生徒に意識させるとともに、教員が調査結果を指導方法の工夫改善に役立てられるようにすることを踏まえて出題した。

## 指導のポイント

### 1 聞き手を意識した内容と話し方を身に付けさせる

スピーチをする際に、「何を伝えるのか」という目的意識と合わせて、「だれに伝えるのか」という相手意識が大切になる。話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手や場に応じた言葉遣いなど、小学校で身に付けた話し方のスキルを生かすとともに、相手の反応を踏まえながら話すことが必要である。以下のポイントを踏まえ、年間15～25時間程度ある「話すこと・聞くこと」の授業において、様々な言語活動を設定し、指導する必要がある。

- (1) 話題の設定（だれに、何を伝える活動なのか）や、言語活動（スピーチ、説明、対話、話合い）等に偏りがいないか。
- (2) 小学校で身に付けた話し方のスキルを基に、学習指導要領に示された指導事項が評価項目に盛り込まれているか。
- (3) 授業で身に付けた言語能力が、他の場面でどのように役立つのか、という観点を生徒に示しているか。

「話し手」の育成は、同時に「聞き手」の育成にもつながる。学習活動の中で役割が相互に入れ替わることで「相手の立場や考えの尊重」という相手意識を生徒にもたせることも大切である。

### 2 情報を選び効果的な表現方法を考えさせる

目的や状況に応じて話すために情報を集め整理したり、資料や機器などを効果的に活用したりする能力を身に付けさせることは大切なことである。今回はポスターを提示してスピーチをする場面の出題であったが、資料や機器などを効果的に活用して話す能力の育成のため、スピーチやプレゼンテーションをする際に、以下のような視点が重要である。

#### (1) 資料を提示する意図の明確化

「何のために資料を作成するのか」「どのような資料を示すのか」等、資料を提示する意図を明確にすることが大切である。資料作成は、話の要点を明らかにするためにも重要なことである。ただ写真等を見せるだけでなく、その資料を提示することで、どのような効果が期待できるかを生徒自身に考えさせることが必要である。話の内容を簡潔に示したり、話の内容を補ったりするなど、明確な意図をもって、聞き手を意識した資料を作成・提示させることが重要である。また、他教科等との関連を意識し、図やグラフの作り方についても、指導することが有効である。

#### (2) ICT機器の効果的な活用

口頭での報告や説明等をする際に、伝えたい内容を聞き手に的確に伝えるためには、図や写真、映像など、分かりやすい資料を示すことが大切である。今回の調査問題のように、ポスターなどの作成は比較的容易である。しかし、他教科との連携や、生活の様々な場面で活用できる力を育成するためには、ICT機器を活用した資料の提示も学習活動に取り入れることが効果的である。ICT機器の活用によって、話し手の思いが分かりやすく伝わり、聞き手の理解を深めることに繋がるのが期待できる。

【特徴的な問題】

5

次の1から4までの各問いに答えなさい。

2 次の一文に接続詞を補い、意味を変えずに二文に分けなさい。

一生懸命練習したので、勝手に選ばれた。

4 次は『徒然草』の中の一部です。ただし、 の中は古文のまま書かれています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

世間の人が木登りの名人と言った男が、人に指図して高い木に上らせて枝を切らせた時に、たいへん危なく見えたうちは何も言わないでおいて、降りる時に、軒の高さくらいになって、「失敗するな、用心しておりよ。」と言葉をかけたので、「これくらいになったからには、飛び降りても降りられるだろう。どうしてそんなことを言うのか。」と申しました。すると、 「その事に候ふ。目くるめき、 枝危あやふきほどは、己が恐れ侍れば申さず。あやまちは、やすき所になりて、必ず仕る事に候ふ」といふ。 身分の低い者であるが、 聖人の戒いましめに一致している。 蹴鞠けまりも難しいところを蹴り出した後で、もう安心だと思っていると、きつと落とすと言われているようです。

※〈注〉蹴鞠けまり：昔、貴族社会で行われた、まりを蹴る遊び。

(兼好法師「徒然草」による。)

## 出題の趣旨

5

2 接続詞に関しては、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（中学校第1学年）イ（工）に示されている「単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意する。」という内容が身に付いているかどうかをみる問題となっている。

最近、話し言葉の「なので」という言葉を、接続詞として用いている場面が多くみられる。生徒が書く文章や、話す言葉にも「なので」を接続詞として使っているものがみられる。この使い方が、文法的に誤りであることを理解し、適切な表現を学ぶ機会となることが望まれる。

4 問題文は兼好法師『徒然草』第109段の「高名の木登り」である。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むという既習事項の定着を確認するとともに、第2学年ア（イ）に示されている「古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」という内容が身に付いているかどうかをみる調査問題となっている。

現代語で書かれた前後の内容から、古語で書かれた内容を類推する力や、古典を読み、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、内容を読み取る力が必要となる。

## 指導のポイント

5

### 2 接続詞の理解について

「なので」という言葉が断定の助動詞「だ」の連体形「な」と、原因や理由を表す接続助詞「ので」が結び付いた言葉である、という文法的な構造を知ることも必要だが、それ以上に日常生活の場面における指導が大切である。そこで、書くことの授業において、「なので」を接続詞として用いた際に、適切な表現に書き換えたり、話すこと・聞くことの授業において、話し言葉として適切な表現を考えたりする学習活動が有効である。

話し言葉ではよく使われているが、幅広い世代で使われているとは言えない言葉は、他にもある。言葉遣いは日常生活の中で養われるものなので、授業のみならず、学校全体の言語環境を整えることを心掛け、生徒が言葉を大切に使うように働きかけることが大切である。

### 4 古典に親しむ指導の工夫

古典の学習に不安を感じたり、苦手意識をもったりする生徒がいるが、小学校の学習を生かし系統的な指導を行うことで、古典への興味・関心を深めることが大切である。そこで、以下の2つの視点で、指導方法の工夫改善を行うことが効果的である。

#### (1) 小学校での学びを生かす

小学校における古典（俳句やいろはうたなども含む）の学習で、生徒は歴史的仮名遣いの文章の音読に親しんでいるため、中学校においても声に出して読み味わう楽しさを体感させることで、古典に対する興味・関心を高めることが大切である。

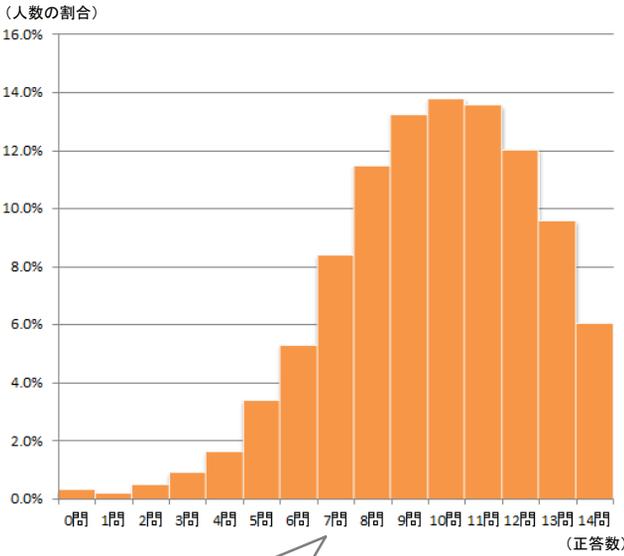
#### (2) ICT機器の効果的な活用

ICT機器を使って、音読のための文章や物語に描かれた当時の様子（絵巻物など）を提示したり、話し合い活動における意見を提示したりすることで、内容の理解を深めたり、古人のものの見方や考え方を想像する学習活動が効果的である。

### Ⅲ 調査結果概況【市全体】

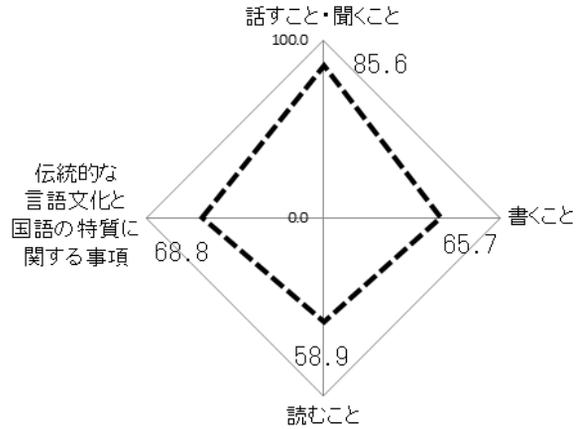
#### 小学校第3学年【国語】

【正答数分布】(全14問)



【領域別レーダーチャート】

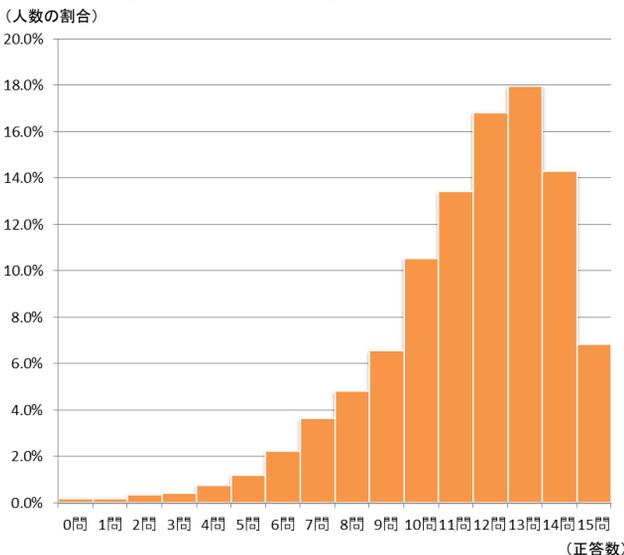
数字…市の平均正答率 (%)



正答数ごとの人数の割合を示したものです。  
例えば、14問中7問正答した児童の割合が8.0%程度であることを表しています。

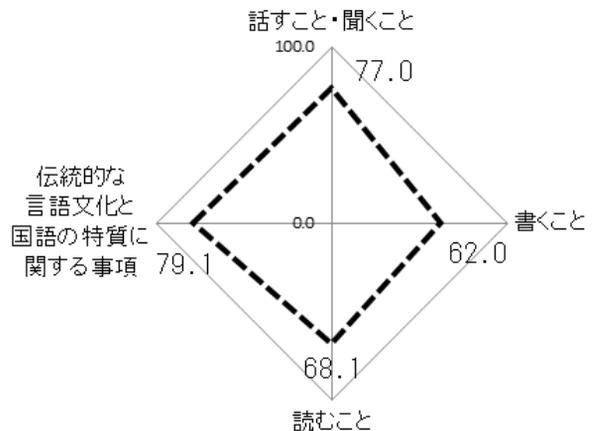
#### 小学校第4学年【国語】

【正答数分布】(全15問)



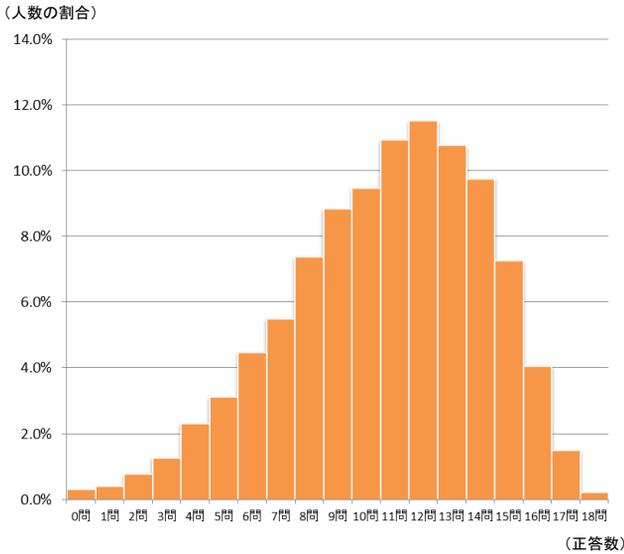
【領域別レーダーチャート】

数字…市の平均正答率 (%)



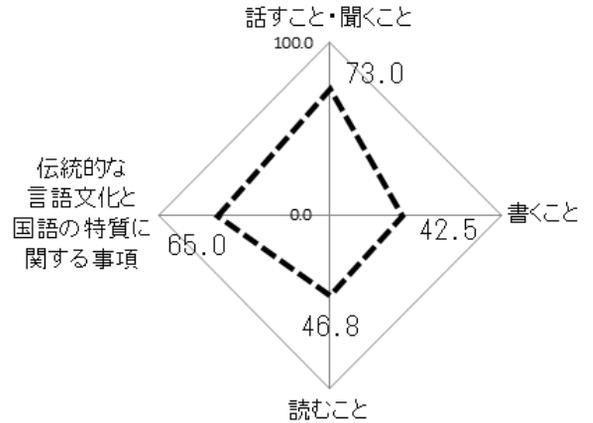
## 小学校第5学年【国語】

### 【正答数分布】(全18問)



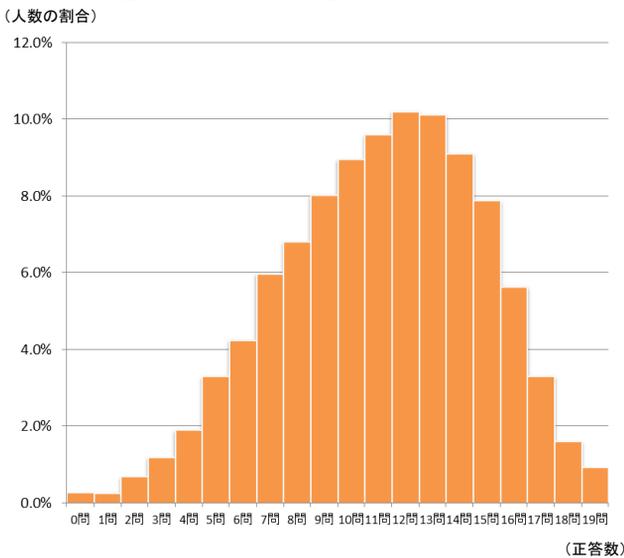
### 【領域別レーダーチャート】

数字…市の平均正答率 (%)



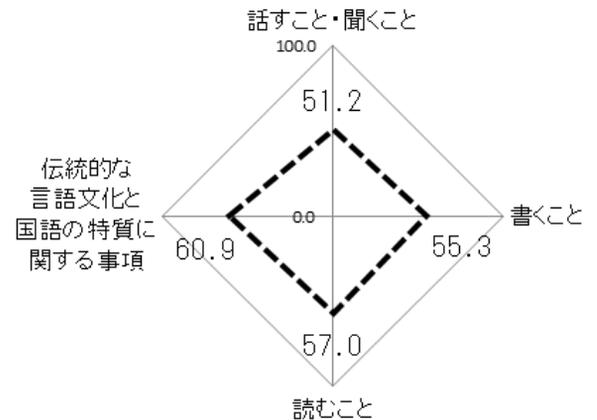
## 小学校第6学年【国語】

### 【正答数分布】(全19問)



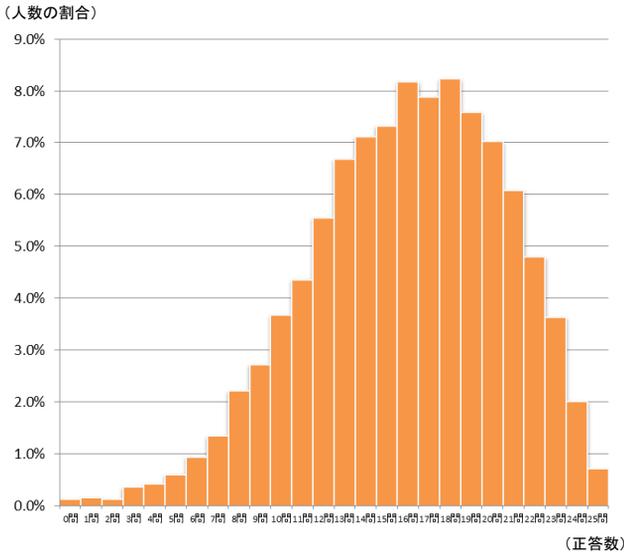
### 【領域別レーダーチャート】

数字…市の平均正答率 (%)



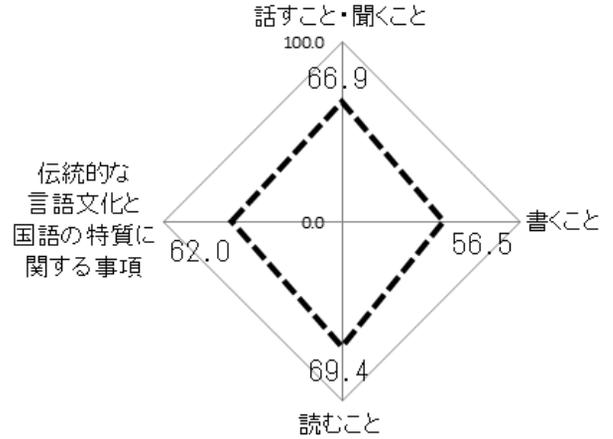
## 中学校第1学年【国語】

### 【正答数分布】(全25問)



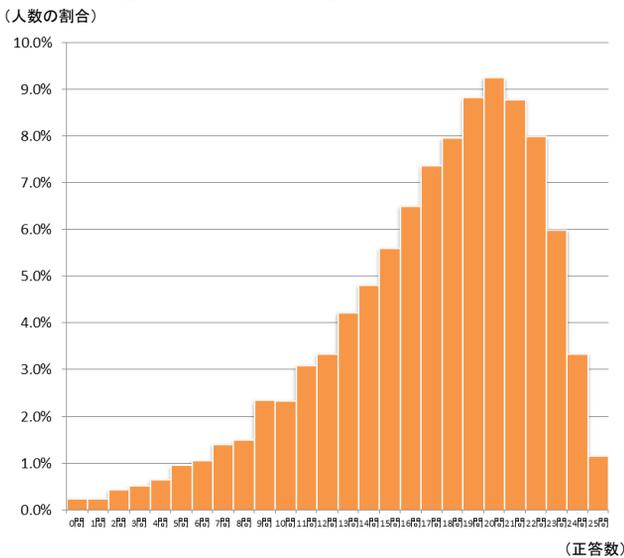
### 【領域別レーダーチャート】

数字…市の平均正答率 (%)



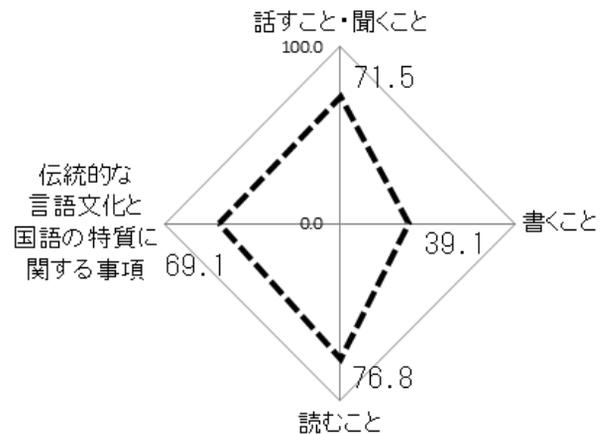
## 中学校第2学年【国語】

### 【正答数分布】(全25問)



### 【領域別レーダーチャート】

数字…市の平均正答率 (%)



## IV 成果と課題

### (1) 小学校

#### <成果>

- 国語科の授業や各教科等において、理由を挙げながら発表したり、話し合ったりする機会を繰り返し設定してきた成果が表れ、第3・4学年とも「相手や目的に応じて、理由を挙げながら話すこと」の正答率が高い。
- 第5学年で出題した「言葉の使い方の違いを理解しているかどうかをみる」問題は、平成22年度全国・学力学習状況調査の問題と同様である。平均正答率が83.4%で、平成22年度よりも1.9%高い。
- 第6学年では、チャレンジ問題の正答率が83.3%、無解答率が2.9%であった。同様のチャレンジ問題を解いた第5学年と比べると、正答率で9.5%、無解答率で5.4%高い結果となった。

#### <課題>

- ▲第3・6学年では、表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすることに課題がみられた。ローマ字の規則性を指導するとともに、ローマ字を使う場面を繰り返し設定することが大切である。
- ▲第4学年では、書こうとすることの中心を明確にして書いたり、文章の敬体と常体の違いを注意したりしながら書くことに課題がみられた。
- ▲第5・6学年では、目的に応じて書いたり読んだりすることに、依然として課題がみられた。効果的な読み方、工夫した文章の書き方を身に付けるために、目的を明確にして読んだり書いたりする指導の充実が求められる。

### (2) 中学校

#### <成果>

- 第1・2学年とも「読むこと」の領域で、日頃の学習や読書活動の成果が表れている。特に第1学年では「文章における論の展開を正確に読み取ること」、第2学年では「叙述に沿って、文章の内容を正確に読み取ること」の平均正答率が高い。
- 第2学年では基礎問題における平均正答率が72.7%となっており、基礎的な力はおおむね身に付いていると考えられる。また、第1学年ではチャレンジ問題における無解答率が9.4%と、活用問題の無解答率9.7%を下回ったことから、新聞記事を題材にした問題についても、日頃、身に付けた知識や技能を活用して積極的に課題に取り組んでいる様子が窺える。

#### <課題>

- ▲第1・2学年とも「書くこと」の領域で、課題がみられた。「文章の構成等を踏まえ、自分の考えをまとめる」や「登場人物の心情について説明する」等の記述式問題で、正答率が低かった。授業等において、根拠を明確にしながら自分の考えを書くなどの学習活動を積み重ねることが大切である。
- ▲「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、特に「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと」に課題がみられた。生徒は、小学校の授業でも音読や暗唱等を通して古典に親しんでいる。生徒の興味・関心を大切にしながら、現代の口語と異なる古文特有のきまりについて、系統的に指導する必要がある。